

シリーズ 3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑦

職藝学院

教授 渡邊美保子

ムラサキツユクサ

朝のお天道様の光が一日ごとにまぶしくなってくる5月の半ばになると、宿根草のお庭では、まんまとしたコマルハナバチが忙しく飛び回ります。その羽音が聞こえてくるとムラサキツユクサが咲き始めたことを教えてくれます。



①一本のおしべには約60本の毛がある。花柄が垂れ下がっているのは咲き終わった花

ムラサキツユクサは、日本の草原で見られるツユクサに花は似ていますが、草丈が50~60cmほどになる北米原産の宿根草です。3枚の花び

らの中央に6本のおしべがあり、それぞれのおしべにはたくさんの毛が生えています。毛の色は花びらの色と似ているのでよく見ないと気づきません。朝の光できらきら光ります。花の命は短くて朝日を浴びて花を開き、午後には閉じてしまう半日花です。一本の花茎のてっぺんにたくさんのつぼみをつけ、そのつぼみたちを見守るように2枚の長くとがった葉が万歳するように天に向かって広がります。咲き終わった花は緑色の顎片が包み込み、花を支えていた長い花柄は地面に向かって垂れ下がります(写真①)。

ムラサキツユクサは、明るい半日陰から日当たりを好み、乾燥にとっても強い宿根草です。代表的な花の色は紫色ですが、赤紫や、ラベンダーブルー、白などの品種もあります(写真②)。4月中旬ごろから細い葉っぱが地面から集団で出てきて、5月の連休の頃までには地面を覆ってくれるので雑草が入り込みません。お勧めの組み合わせは、ヘメロカリス、ギボウシなどです。



②いろいろな花色のムラサキツユクサ 5月中旬 職藝学院宿根草実験ガーデン

また、いろいろな花の色を組み合わせ、群落をつくるように植栽しますと、自然に交配してとんでもないところから芽がでてきます。今まで花壇になかった花色のムラサキツユクサを気長に作出することもできます(写真③)。花よりも葉のほうが目立ち、朝の光をいとおしむようにちらりほらりと咲き進みますので、主役になれる花ではありませんが、1ヶ月ほど咲いてくれます。6月下旬になると密生していた花茎が、ぱたんと倒れ、株が割れたようになりますので、根元から切り戻しますと、再び地面から新しい葉が茂ってきます。



③2002年に植栽した3種類の花色から自然交配して生まれたコバルトブルー色の花